



第100回全国高等学校野球選手権記念大会優勝記念特集

2018年
夏

OSAKA TOIN HIGH SCHOOL

BASEBALL TEAM

2度目

春夏連覇

史上初



Special
Issue

NeOSU

学園ニュースレター「ネオス」特別号

8月21日(火)
決勝
対 金足農
(秋田)

100回節目に連覇達成 「一球同心」結実

春夏8回目の優勝

第100回全国高校野球選手権記念大会(日本高校野球連盟、朝日新聞社主催、毎日新聞社後援、阪神甲子園球場特別協力)は最終日の21日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で決勝があり、今春センバツ優勝の大阪桐蔭(北大阪)が13―2で金足農(秋田)に大勝し、4年ぶり5回目の優勝を飾るとともに2012年以来となる史上初の2度目の春夏連覇を達成した。春夏通算8回目の優勝で、PL学園(大阪)、広島商、松山商(愛媛)を抜き、中京大中京(愛知)の11回に次いで歴代単独2位となった。今大会の総入場者数は101万5000人で、過去最多だった第72回(1990年)の92万9000人を上回って史上最多だった。

大阪桐蔭	打	安	点	振	球
⑦ 宮崎	4	2	4	0	1
⑨ 嶋地	5	3	0	0	0
⑤ 中川	5	2	0	2	0
⑧ 藤原	5	3	2	2	0
⑥ 根尾	4	1	3	0	1
③ 石川	5	1	2	0	0
④ 山田	5	2	0	0	0
② 小泉	3	3	1	1	2
① 柿木	3	0	0	2	0
犠打	2	0	0	0	8
盗塁	39	15	12	7	4

投手	回	打	安	振	球	責
柿木	9	34	5	7	3	2

金足農	打	安	点	振	球
④ 菅原	3	0	0	0	0
⑦ 5 佐々木	3	0	1	2	0
① 9 吉田	4	0	0	1	0
⑤ 1 打川	4	2	0	1	0
⑧ 大友	2	0	0	1	0
③ 高橋	4	2	0	1	0
⑨ 7 菊池	2	0	0	0	2
② 菊池	3	1	1	0	0
⑥ 斎藤	2	0	0	1	1
犠打	4	0	1	0	5
盗塁	27	5	2	7	3

投手	回	打	安	振	球	責
吉田	5	32	12	4	3	11
打川	3	13	3	3	1	1

- 本塁打 [大] 宮崎1号③
根尾3号②
- 二塁打 [大] 石川、藤原2、山田、中川
- 三塁打 [金] 菊池亮
[大] 柿木2
[金] 菅原天、佐々木夢、大友2
- 失策 [金] 菅原天
[大] 柿木 [金] 吉田
- 試合時間 2時間12分
- 審判 (球審) 壺田 (塁審) 古川泰、土井、宅間



一回裏2死二塁、石川が右中間2点二塁打を放つ



史上初の2度目の春夏連覇を懸けた大舞台。球場内が緊張感に包まれる中、大阪桐蔭は打線が本領を発揮した。一回裏、安打と四球などで2死満塁とすると、暴投で先制。さらに準決勝で決勝打を放った石川の2点適時二塁打で3点をリードし、主導権を握った。

1点を返されて迎えた四回裏、1死一、二塁から宮崎が左翼手の頭を大きく越える3点本塁打を放ち、突き放した。

打線の勢いは止まらず、五回裏には根尾が、今大会3本目となる2点本塁打をバックスクリーンにたたき込んだ。打線がつながり、今大会3本塁打の藤原の2点適時二塁打などこの回7安打6得点、打者一巡の猛攻で試合を決めた。

投げては準決勝に続いて先発したエースの柿木が7三振を奪い、5安打2失点に抑えて完投。最後の打者を打ち取ると、選手たちはマウンドに駆け寄って抱き合って喜んだ。

偉業を成し遂げた選手たちに球場内の観客からも大きな拍手が送られた。

午後2時6分開始(観衆45,000人)

金 足 農	0 0 1	0 0 0	1 0 0	2
大阪桐蔭	3 0 0	3 6 0	1 0 X	13



四回裏1死一、二塁、宮崎が左越え3点本塁打を放つ



五回裏無死一塁、根尾が中越え2点本塁打を放つ



五回裏1死二塁、小泉が適時二塁打を放つ



五回裏2死満塁、藤原が左中間に2点二塁打を放つ



8月6日(月)
1 回戦
対 作新学院
(栃木)

進化の投で 接戦制する

午前11時1分開始(観衆38,000人)

作新学院	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大阪桐蔭	0	1	0	0	0	0	2	X	3

二回根尾が左翼線三塁打で出塁し、1死後、山田の左犠飛で先制のホームを踏んだ。八回は藤原の右前適時打に敵失が絡んで2点を加え、接戦をものにした。柿本はコーナーに投げ分けて1失点で完投した。



二回1死、山田の犠飛で先制



先発の柿本



六回2死満塁、宮崎の三塁適時内野安打で勝ち越す



七回、根尾が中越え本塁打を放つ



8月13日(月)
2 回戦
対 沖学園
(南福岡)

一打二進 積極走塁で大量点

午前9時34分開始(観衆45,000人)

沖学園	0	1	0	0	1	1	0	1	0	4
大阪桐蔭	0	0	0	2	1	4	1	2	X	10

同点の六回2死満塁から宮崎の三塁適時内野安打で勝ち越し、青地の左前2点適時打に敵失が絡んで3点を加えた。その後は根尾の中越えソロや藤原の左越え2ランで加点。

八回2死三塁、藤原が左越え2点本塁打を放つ



8月16日(木)
3 回戦
対 高岡商
(富山)

三回1死一、二塁、中川が適時二塁打を放つ

地力を発揮 「壁」越える8強

午後3時24分開始(観衆42,000人)

高岡商	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
大阪桐蔭	0	0	2	0	0	1	0	0	X	3

1点を追う三回、主将・中川が左中間2点二塁打を放ち、逆転。先発の左腕・横川は変化球を巧みに使い5回1失点と粘投。2番手の右腕・柿本も三塁を踏ませずに抑え継投で競り勝った。



先発した横川



二回1死、根尾が
左中間に本塁打を放つ



六回1死、青地が適時打を放つ



八回2死、藤原が
中越え本塁打を放つ

8月18日(土)
準々決勝
対 浦和学院
(南埼玉)

4本塁打と 集中打で大勝

午前8時5分開始(観衆41,000人)

大阪桐蔭	0	1	1	0	1	6	0	1	1	11
浦和学院	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2

4本塁打を含む12安打11得点で圧倒した。二回に根尾の左中間ソロで先制。五回に藤原の右越えソロで加点し、六回は青地以下の3連続適時長短打など打者一巡の猛攻で6点。八回は藤原の中越えソロで突き放した。

これで西谷監督は甲子園での春夏通算勝敗数を53勝9敗とし、PL学園元監督の中村順司氏の58勝10敗を勝率で上回った。



四回1死二、三塁、山田が
左前適時打を放つ



五回2死満塁、石川が
中前2点適時打を放つ

8月20日(月)
準決勝
対 済美
(愛媛)

底力発揮で 逆転勝利

午後0時55分開始(観衆44,000人)

済美	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
大阪桐蔭	0	0	0	2	3	0	0	0	X	5

1点を追う四回、山田の左前適時打と相手の捕逸で逆転。追いつかれた直後の五回は連打などで2死満塁から、石川の中前2点適時打と敵失で3点を勝ち越した。

先発・柿木は要所で力強い直球を決めて六回以降は三塁を踏ませず、10奪三振2失点で完投した。





「有言実行、うれしい」 松井知事にV報告

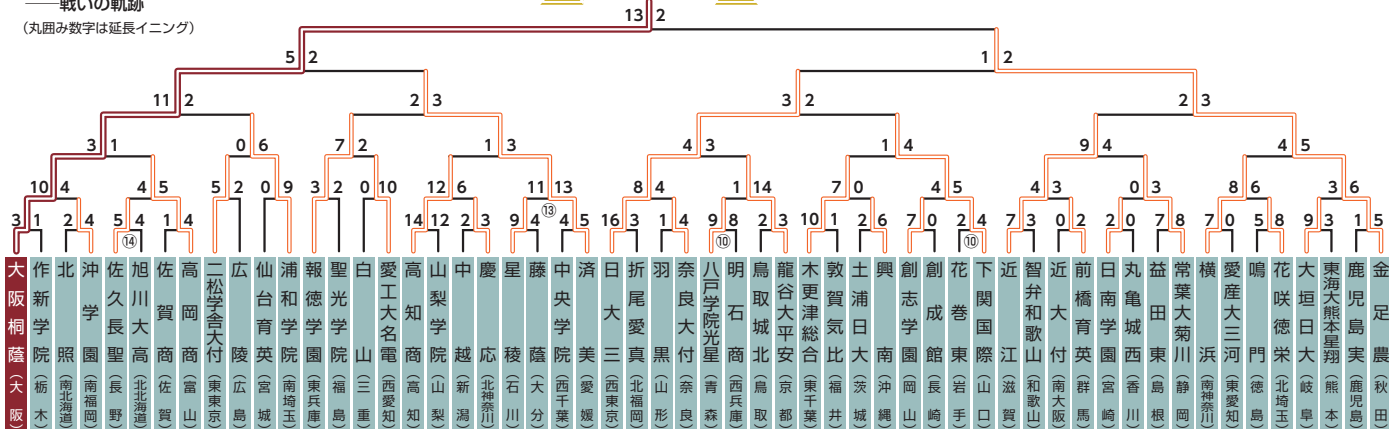
第100回全国高校野球選手権記念大会で史上初の2度目の春夏連覇を果たした大阪桐蔭の選手らが8月24日、府庁を訪れ、優勝を報告した。

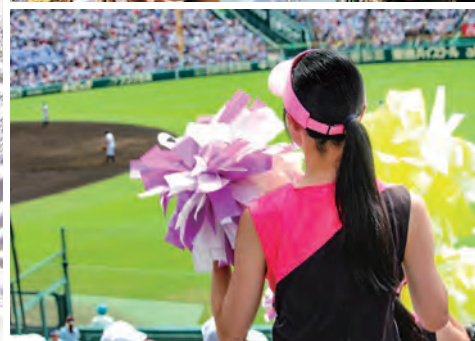
松井一郎知事に、西谷浩一監督が「63人全部員で優勝することができました」とあいさつ。大会前の訪問時、優勝を宣言していた中川卓也主将は「有言実行し、優勝旗を持ってここに来ることができ、うれしく思います」と述べた。松井知事は「感動を与えてくれて感謝しています。たくさんの人が勇気づけられました」とねぎらった。



●第100回全国高校野球選手権大会
——戦いの軌跡
(丸囲み数字は延長イニング)

優勝 大阪桐蔭





謙虚で真摯な姿に 感動

校長 今田 悟

春夏連覇、おめでとうございます。全試合球場で観戦させてもらいましたが、センバツ大会王者であるという驕りなど微塵も感じさせず、常に謙虚で真摯に野球に取り組む選手の方々の姿に感動しました。非常な暑さにも関わらず共に応援してくれた吹奏楽部の皆さん、チアリーダー部の皆さんにも感謝の言葉を贈ります。今大会でも多くの方々にご支援、ご祝福を頂戴しました。心より感謝を申し上げます。今後ともよろしく願い申し上げます。



強みを活かし つかんだ優勝

部長 有友 茂史

春夏連覇を成し遂げることができ、安堵しております。選手たちは「経験」という強みを最大限活かしながら持てる力を発揮。成熟した大人のチームとしてしなやかに戦ってくれました。一喜一憂することなくストイックに野球に取り組む姿勢の結実だと振り返っています。たくさんのご声援が選手たちを勇気づけたことは言うに及びません。試合では常に一体感をかみ締めながらプレーさせていただきました。本当にありがとうございます。



重圧を乗り越え 「一球同心」を体現

監督 西谷 浩一

昨年夏の敗戦から、今年は必ず日本一になるという気概で取り組んでまいりました。達成することができ心から嬉しく思います。選手には少なからず重圧があったと思いますが、真正面から受け止め、そして乗り越えてくれました。「一球同心」を体現してくれた素晴らしい選手、チームです。これもすべて日頃より支えてくださっている方々のおかげと感謝しております。さらに精進をしてまいりますので、一層のお力添えをお願い申し上げます。



粘り強い野球で 達成した日本一

主将 中川 卓也

春以降、自分たちをもっと強くなれると練習に励んできました。プレッシャーや不安もありましたが、力に変えて戦うことができました。自分たちらしい粘り強い野球が実践できたと思います。勝つという目標のため、チームメイトに対して厳しい言葉を投げかけたこともありましたが、本気で言い合える、そして本気で笑い合える最高のチームでした。皆さんの日本一の応援が、僕たちを日本一に押し上げてくれました。ありがとうございました。

2018年9月発行

発行元：学校法人大阪産業大学 総務部 総務課
〒574-8530 大阪府大東市中垣内3丁目1番1号
TEL：072-875-3001 <https://www.osaka-sandai.org/>

